



竪穴住居跡



円墳

国指定史跡 鳥取県米子市

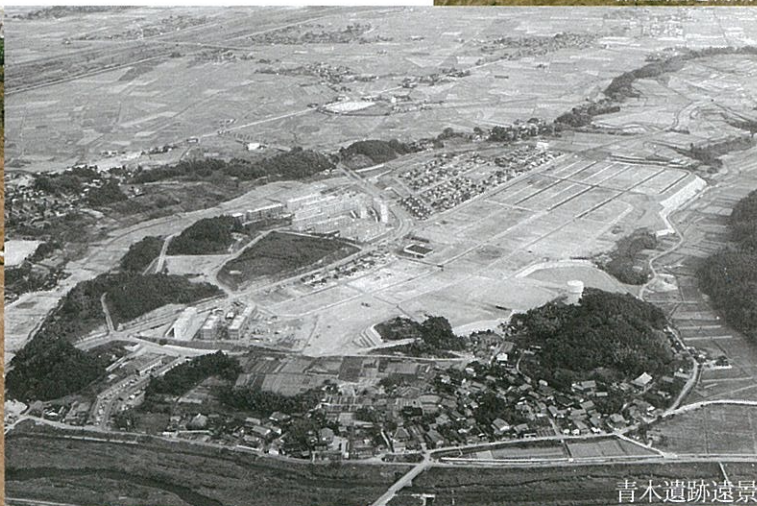
青木遺跡



掘立柱建物跡



発掘調査風景



青木遺跡遠景

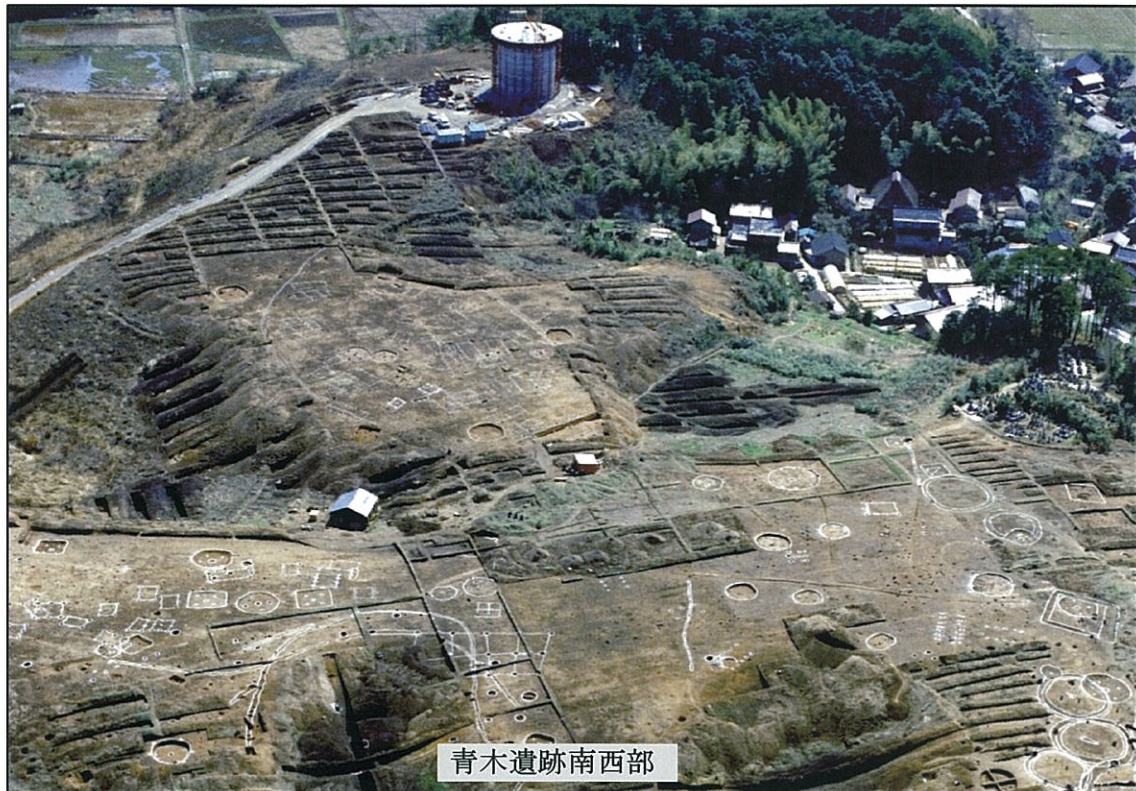


調査地区遠景

米子市教育委員会

山陰を代表する集落遺跡 青木遺跡

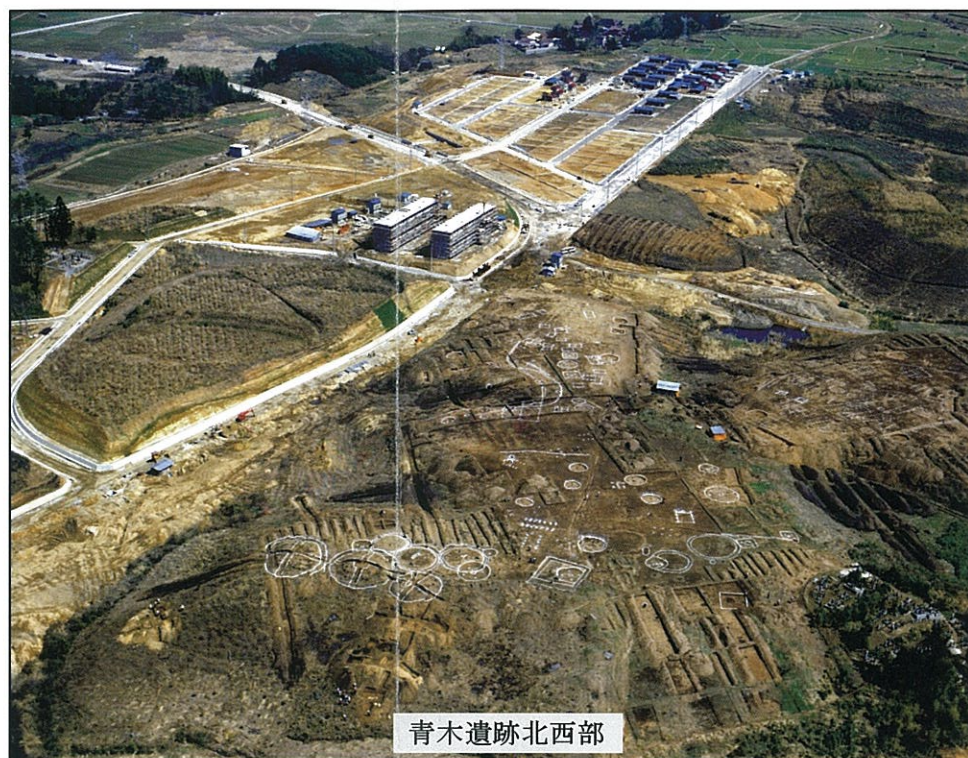
青木遺跡は、法勝寺川と日野川に挟まれた長者原台地に広がる弥生時代から古墳時代を中心にした集落遺跡です。昭和46年(1971)から昭和52年(1977)にかけて実施された住宅団地造成工事に伴う発掘調査では、竪穴住居跡206棟、掘立柱建物跡260棟など多くの遺構や、土器や石器など数万点に及ぶ遺物が発見されました。古代の人々の暮らしや生活の移り変わりを知る貴重な遺跡として、調査面積約40万㎡のうち1/10の4万㎡が国史跡に指定されました。



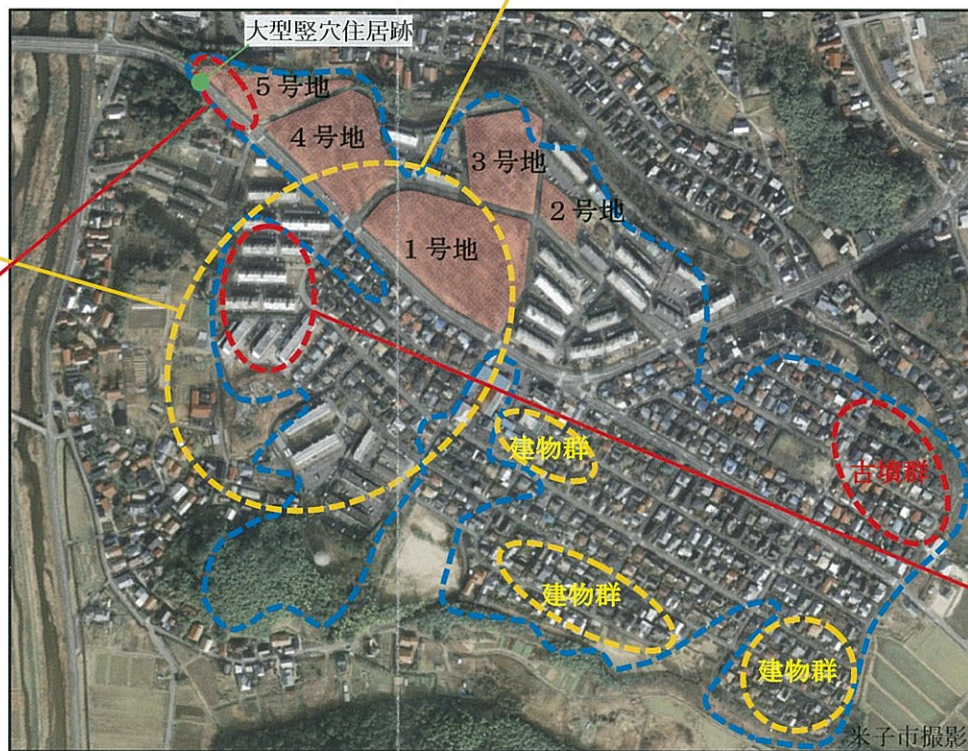
青木遺跡南西部

丘陵に営まれた集落群

青木遺跡に初めて集落が営まれたのは、今から2000年以上前の弥生時代中期(紀元前2世紀～前1世紀頃)になります。以降、古墳時代前期(4世紀)にかけて、台地の中央から西部を中心に多くの竪穴住居や掘立柱建物が建てられました。また、一部の地域では奈良時代(8世紀)の集落跡も確認されています。これらの建物は幾度も建て替えられたため、住居跡や柱穴が密集した状態で検出されています。青木遺跡のすぐ北側には、弥生時代後期から古墳時代にかけて集落が営まれた福市遺跡があり、丘陵一帯で多くの人々が生活していたことが確認されています。



青木遺跡北西部



米子市撮影



古墳時代前期の方形周溝墓群

埋葬された首長達

古墳時代になると丘陵上に多くの古墳が造られました。これまでの発掘調査によって前方後円墳4基、方墳12基、円墳39基の計55基が確認されています。また、北西部の丘陵先端では、周囲に溝を巡らした31基の方形周溝墓が築かれています。

大半は道路工事によって消滅しましたが、5号地内にはその内の4基が保存されています。



四辺に溝が巡らされた方形周溝墓

また、西側の丘陵上では、方墳10基、円墳7基が調査され、土器棺や箱式石棺、割竹形木棺などの多様な埋葬施設が検出されています。古墳からは青銅鏡(内行花文鏡)が1点出土していますが、いずれも副葬品は少なく小規模な古墳であることから、これらは青木地域の集落を率いた小首長の墳墓群と考えられます。



大型竪穴住居跡

弥生時代の有力者の住まい

丘陵北西部で発見された径約8mの大型住居跡からは、半分に割られた青銅鏡(八禽鏡)が出土しました。当時、鏡は祭器や威信財として扱われており、ここに集落を率いた有力者が居住していた可能性が考えられます。



箱式石棺と人骨



八禽鏡



落とし穴

縄文時代の落とし穴

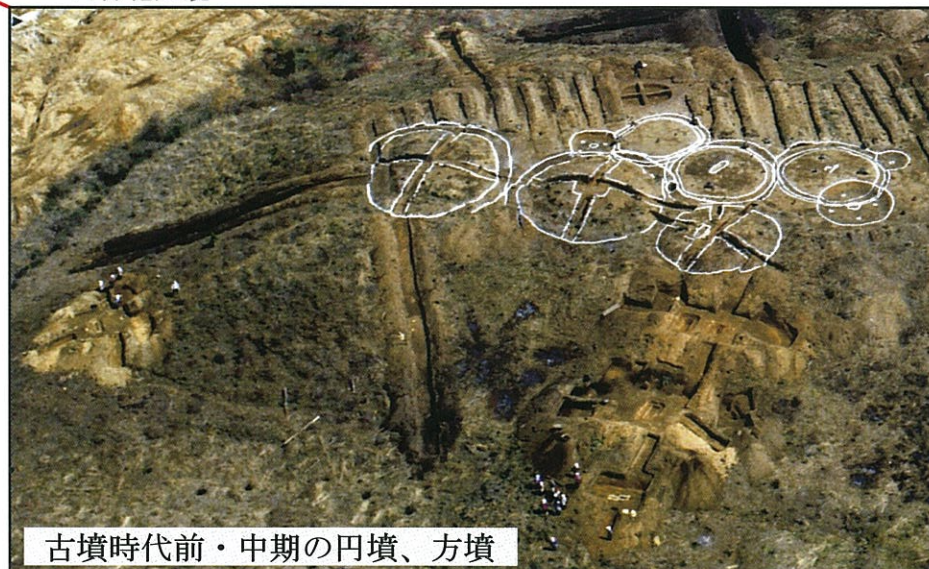
青木遺跡では、3000年以上前の縄文時代に仕掛けられた228基もの落とし穴が発見されています。落とし穴の底にはウサギやイノシシなどの獲物に怪我を負わせるための杭を立てられていた痕跡が認められます。



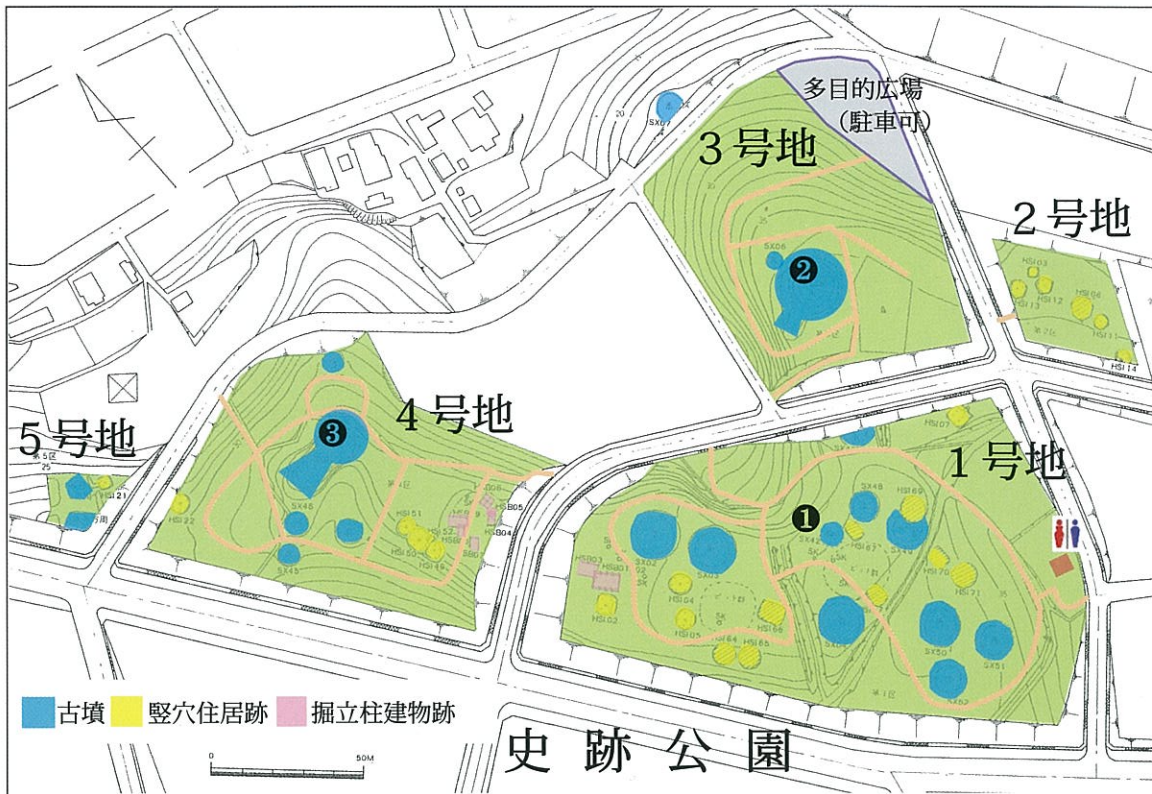
内行花文鏡



土器棺



古墳時代前・中期の円墳、方墳



① H42号墳(箱式石棺)
板石で組み立てられた箱式石棺を持つ埋葬施設。



② H39号墳
全長27mの前方後円墳。後円部に比べ前方部が小さく、帆立貝のような墳丘を持つ。



③ H35号墳
全長33mの前方後円墳。青木遺跡最大の古墳。



● 1号地

史跡公園として保存された地区には、弥生時代後期から古墳時代中期(1~5世紀)にかけての竪穴住居跡23棟、掘立柱建物跡9棟、古墳時代中期から後期(5~6世紀)の築造と推定される古墳17基などが残されています。全面的な発掘調査が実施されていないため、これ以上の遺構が埋蔵されていると推定されています。これらの遺跡は地下に保存され、一部は標識やつつじの植込みで表示してあります。



米子市福市考古資料館

福市・青木遺跡の出土遺物を中心に米子市内で発見された考古資料を展示しています。

- 入館料 無料
- 開館時間 9:30~17:00
- 休館日

火曜日又は祝日の翌日
12/29~1/3

〒683-0011
米子市福市461-20
TEL・FAX
0859-26-3784

交通アクセス ●【JR】「米子駅」から路線バス(溝口線)
「団地中央」下車徒歩すぐ
●【車】「米子駅」から【約15分】
「山陰自動車道米子南I.C」から【約5分】